

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
教育委員会	図書館	奉仕班

事務事業名	ブックスタート事業							
総合計画 体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさや愛を育むまち						
	施策	施策1. 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(1)生涯学習活動の促進						
事業区分	経常事業	実施計画見直し区分						
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)							
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
根拠法令等	図書館法							
事業の内容 (Plan)	事業内容	健康推進課で実施している乳幼児健診に合わせて、ボランティアと職員による絵本の読み聞かせを行うことで子どもの情操を育み、親子のコミュニケーションの大切さや読書習慣及び図書館利用の習慣を促し、幼少期での本との出会いの大切さを理解してもらえるよう事業を実施する。						
	新規・拡充 縮小・廃止 理由							
	現状 (課題・ニーズ)	職員2名とボランティア3人の体制で健診を終了した親子に絵本の読み聞かせを実施。						
	対象 (誰・何を)	乳幼児健診対象者						
	意図・成果 (どのような 状態にするか)	幼少時期での本との関わりは、その後の成長過程での人間形成に大きく影響があることを理解してもらおうとともに、読書習慣や図書館利用の習慣を促進する。						
	協働の 取り組み	あり	協働の 取り組み内容	職員と共に、健診時にボランティアが絵本の読み聞かせのサポートを行っている。				

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	315						315
29 当初	182						182
30 計画(概算)	322						322
合計	819						819

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
ブックスタート事業	教育委員会	図書館	奉仕班

指標データ (Do)	活動指標 事務事業の活動量を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	開催回数	回	12	12	12		12	
指標データ (Do)	成果指標 達成度を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	参加者	人	400	330	400		400	

	着眼点	チェック	判断理由			
事業の 評価 (Check)	目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3 結びついている 2 検討の余地あり 1 見直しが必要である	3 絵本の提供により心の豊かさの育成に結びついており、後に図書館資料の利用に結びつけるには、市で実施することが妥当である。		
		②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	3 市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である 2 検討の余地あり 1 市が実施又は支援する必要性が低い事業である		3	
			有効性			③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？
	④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？			3 向上の余地がない 2 検討の余地あり 1 可能である		3
		効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3 削減余地がない 2 検討の余地あり 1 可能である	3 すでにボランティアに協力を得て実施している事業であり、削減の余地はない。	
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？		3 削減余地がない 2 検討の余地あり 1 可能である	3		
		公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？		3 見直しの余地がない 2 検討の余地あり 1 見直しが必要である	3 読書支援については、人格形成に大きく影響すると言われており、参加者が等しく享受することが重要で、見直す余地はない。

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	対象者に対して95%以上の実施率であるので、本の配付を含め継続的に行うことで、効果の向上が期待できる。
	改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)
	あり	子どもの読書活動を推進させるためには、図書館だけでなく関係各課並びに学校や地域(ボランティア)との連携がとても重要であると考えるので、引き続き関係を深め実施していく。

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
教育委員会	図書館	奉仕班

事務事業名	図書館運営事業							
総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい, みんなで学ぶ, 心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1. 地域文化を継承し, 市民の仕事や趣味, 生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)生涯学習の拠点の充実						
事業区分	経常事業	実施計画見直し区分						
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)							
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
根拠法令等	図書館法 富里市立図書館の管理及び運営に関する規則							
事業の内容 (Plan)	事業内容	図書館業務を効果的に運営を行う。						
	新規・拡充 縮小・廃止 理由							
	現状 (課題・ニーズ)	基本的な図書館業務を維持向上させながら電算システムやホームページの向上に努めている。						
	対象 (誰・何を)	利用者						
	意図・成果 (どのような 状態にするか)	必要とする知識や情報提供を行い探究心の向上を図れるよう電算システム機能向上など利用者への利便性の向上を図る。						
	協働の 取り組み	あり	協働の 取り組み内容	ボランティアによる書架の整理や配架作業を行っている。登録数は5名(28年度実績)				

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	27,490				34		27,456
29 当初	26,957				28		26,929
30 計画(概算)	27,275				34		27,241
合計	81,722				96		81,626

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
図書館運営事業	教育委員会	図書館	奉仕班

指標データ(D.o.)	活動指標 事務事業の活動量を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	貸出冊数	冊	286,000	233,273	286,000		286,000	
	ホームページ更新回数	回	78	102	78		78	
指標データ(D.o.)	成果指標 達成度を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	貸出者数	人	73,000	61,830	73,000		73,000	
	ホームページアクセス数	数	190,000	190,469	190,000		190,000	

事業の評価(Check)	着眼点	チェック		判断理由	
目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3	結びついている	3	図書館資料の提供により心の豊かさの育成や学習支援に結びついている。市が実施することは、社会教育施設としての役割を果たす上では妥当である。
		2	検討の余地あり		
1		見直しが必要である			
②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	3	市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である	3		
	2	検討の余地あり			
	1	市が実施又は支援する必要性が低い事業である			
有効性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？	3	順調である	2	少子高齢化の影響などで、利用者数は微減しており、また貸出者数、貸出冊数はともに減少傾向にある。一方でホームページアクセス数は平成25年のリニューアル後に大きく増加しており、インターネット予約も順調に増えている。今後も引き続き図書資料の充実やホームページによる情報発信に努める。
		2	あまり順調ではない		
		1	順調ではない		
④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3	向上の余地がない	3		
	2	検討の余地あり			
	1	可能である			
効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3	削減余地がない	3	資料整備事業と連動する事業であり、統廃合の余地はない。人件費の削減については、任期付短時間勤務職員や非常勤職員の配置により削減に努めている。
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3	削減余地がない	3		
	2	検討の余地あり			
	1	可能である			
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3	見直しの余地がない 該当しない	3	図書館法で図書館の利用に対する対価を禁止している。
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		

■担当課による評価

改善(Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	資料整備事業の補完事業ではあるが、公共施設の中で最も活用される施設として、安定的に図書館運営ができるように努める。
改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)	
なし		

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
教育委員会	図書館	庶務班

事務事業名	図書館施設管理事業							
総合計画 体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1. 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)生涯学習の拠点の充実						
事業区分	経常事業	実施計画見直し区分						
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)							
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
根拠法令等	消防法 建築基準法							
事業の内容 (Plan)	事業内容	利用者が快適に利用できるよう施設の維持管理を行う。						
	新規・拡充 縮小・廃止 理由							
	現状 (課題・ニーズ)	建築後10年が過ぎ経年劣化による修繕が、多く発生している。						
	対象 (誰・何を)	図書館						
	意図・成果 (どのような 状態にするか)	図書館を安全・快適に利用していただくため、必要な維持管理を行い適正管理の向上を図る。						
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容					

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	19,013				30		18,983
29 当初	20,720				30		20,690
30 計画(概算)	22,337				40		22,297
合計	62,070				100		61,970

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
図書館施設管理事業	教育委員会	図書館	庶務班

指標データ (Do)	活動指標 事務事業の活動量を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	各種点検項目数	件	10	10	10		10	
維持費項目数	件	7	7	7		7		
指標データ (Do)	成果指標 達成度を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	図書館利用者数	人	320,000	290,495	320,000		320,000	

着眼点		チェック		判断理由	
目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3	結びついている	3	施設管理することにより、生涯学習の拠点として充実に結びついている。消防法・建築基準法で規定されているため妥当である。
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		
目的 妥当性	②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	3	市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である	3	
		2	検討の余地あり		
		1	市が実施又は支援する必要性が低い事業である		
有効性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？	3	順調である	3	少子高齢化の影響などで利用者数は微減しているが、施設の維持管理に限定しており進め方を変更できないため向上の余地がない。
		2	あまり順調ではない		
		1	順調ではない		
有効性	④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3	向上の余地がない	3	
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3	削減余地がない	3	大規模な修繕費が突発的に起こらないよう日ごろから適正な施設の維持管理に努めており、事業削減の余地がない。
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
効率性	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3	削減余地がない	3	
		2	検討の余地あり		
		1	可能である		
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3	見直しの余地がない 該当しない	3	図書館法で、図書館利用に対する対価を禁止していることから見直しの余地がない。
		2	検討の余地あり		
		1	見直しが必要である		

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	施設の老朽化が進んできていることから、引き続き計画的かつ適正な維持管理に努め、市民が快適に図書館を利用できるようにしていく。
改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)	
なし		

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
教育委員会	図書館	奉仕班

事務事業名	資料整備事業							
総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさや愛を育むまち						
	施策	施策1. 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)生涯学習の拠点の充実						
事業区分	経常事業	実施計画見直し区分						
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)							
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
根拠法令等	図書館法 富里市立図書館の管理及び運営に関する規則							
事業の内容 (Plan)	事業内容	図書館の基幹である資料整備、一般書、児童書、郷土関係資料(すいか・馬関係)、視聴覚資料、雑誌などを収集し、利用に供されるよう整備・保存し世代を超えての活用を図る。						
	新規・拡充 縮小・廃止 理由							
	現状 (課題・ニーズ)	各分野の資料を幅広く選択・収集し提供を行った。また古くなった資料や貸出しが減った資料の除籍を行い、資料の鮮度を出来る限り保てるように取り組んでいる。						
	対象 (誰・何を)	利用者						
	意図・成果 (どのような 状態にするか)	図書館資料を通じて必要とする情報を提供し知識、探究心の向上を図り、地域における知の向上を目指す。						
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容					

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	17,454						17,454
29 当初	15,940				12		15,928
30 計画(概算)	17,647						17,647
合計	51,041				12		51,029

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
資料整備事業	教育委員会	図書館	奉仕班

指標データ (Do)	活動指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	事務事業の活動量を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	図書等資料整備費(図書・視聴覚)	千円	11,630	11,626	10,020		10,020	
指標データ (Do)	成果指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	達成度を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	新規購入図書資料数	冊	7,000	6,484	6,000		6,000	
新規購入視聴覚資料数	点	72	83	72		72		

事業の評価 (Check)	着眼点	チェック		判断理由	
	目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？ ②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	3 2 1	結びついている 検討の余地あり 見直しが必要である	3 3
有効性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？ ④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？	3 2 1	順調である あまり順調ではない 順調ではない 向上の余地がない 検討の余地あり 可能である	3 2	
効率性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？ ⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？	3 2 1	削減余地がない 検討の余地あり 可能である 削減余地がない 検討の余地あり 可能である	3 3	すでに図書館ボランティアと各種事業に取り組んでおり、また資料選定にあたっては専門知識が求められる職種であることからこれ以上の削減の余地はない。
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3 2 1	見直しの余地がない 該当しない 検討の余地あり 見直しが必要である	3	図書館法で図書館資料の利用に対する対価を禁止していることから見直す余地はない。

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	
改革・改善の余地		改革・改善案(ありの場合記入)
あり		図書館に求められる機能の1つが「市民が自ら必要な情報を収集し、現状判断や意思決定を行うための情報提供施設」であることから、市民に利用される資料整備は、図書館のサービス全般の専門知識のみならず、社会の動向や地域の課題を熟知している人員の配置などで、改革・改善に繋がる余地がある。

平成 28 年度 事務事業 評価シート(兼実施計画シート)

担当部名	担当課等名	担当室・班名
教育委員会	図書館	奉仕班

事務事業名	学校開放型図書室活用事業							
総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策1. 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興						
	施策の展開	(2)生涯学習の拠点の充実						
事業区分	経常事業	実施計画見直し区分						
事業期間	単年度繰返し (平成 年度 ~ 平成 年度)							
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	3
根拠法令等	図書館法 富里市立図書館の管理及び運営に関する規則							
事業の内容 (Plan)	事業内容	図書館の簡易的サービスを受けられるサービスポイントとして、浩養小学校内にある市民図書室の運営						
	新規・拡充 縮小・廃止 理由							
	現状 (課題・ニーズ)	地域に根ざした運営を行っており、遠隔地利用者の利便性の向上などを考慮し運営している。						
	対象 (誰・何を)	利用者						
	意図・成果 (どのような 状態にするか)	事業を通じて、遠隔地の利用者の救済や図書館資料の利用促進を図る。						
	協働の 取り組み	なし	協働の 取り組み内容					

■年度別事業費計画表 (単位：千円)

年度 項目	事業費総額	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他	繰入金	一般財源
28 決算	402						402
29 当初	397						397
30 計画(概算)	414						414
合計	1,213						1,213

事務事業名	担当部名	担当課等名	担当室・班名
学校開放型図書室活用事業	教育委員会	図書館	奉仕班

指標データ (Do)	活動指標	単位	28年度		29年度		30年度	
	事務事業の活動量を表す指標		目標	結果	目標	結果	目標	結果
	開室日	日	146	150	146		146	
成果指標	達成度を表す指標	単位	28年度		29年度		30年度	
			目標	結果	目標	結果	目標	結果
	貸出者数	人	800	275	300		300	
貸出冊数	冊	1,200	583	600		600		

事業の評価 (Check)	着眼点	チェック		判断理由	
	目的 妥当性	①総合計画施策体系と整合 ・この事務事業の目的は、市の施策体系に結びつくか？ ・意図することが結果に結びついているか？	3 結びついている	3	図書館資料の提供により心の豊かさの育成や学習支援に結びついており、社会教育施設としての役割を果たす上では、市が実施することは妥当である。
有効性	②公共性関与の妥当性 ・市が実施又は支援すべき事業か？ ・税金を使って達成する目的か？	2 検討の余地あり			
		1 見直しが必要である			
		3 市が実施・支援するのが効果的・効率的な事業である	3		
	2 検討の余地あり				
	1 市が実施又は支援する必要性が低い事業である				
効率性	③目標の達成状況 ・指標の目標達成状況は順調か？	3 順調である	2	H26.27年度は浩養幼稚園が定期的に来室し貸出しが行われたため一時的に増加した。H28年度からは市内幼稚園保育園向けに団体貸出を行う「らっこ便」をスタートさせたことから、来室者数は減少している。このため、H29年度の目標値は修正した。	
	公平性	④成果向上の余地 ・事務事業のやり方、進め方などを変えることで成果を向上させることができるか？			2 あまり順調ではない
					1 順調ではない
		3 向上の余地がない	2		
	2 検討の余地あり				
	1 可能である				
公平性	⑤事業費の削減余地 ・協働の取り組みや、類似事業との統廃合や関連事業と連携する等コスト削減の余地はあるか？	3 削減余地がない	3	最小限の事業費で実施していることから削減の余地はない。	
	公平性	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して業務時間などを削減できないか？ ・現状の成果を下げずに人件費を削減することができるか？			2 検討の余地あり
					1 可能である
		3 削減余地がない	3		
	2 検討の余地あり				
	1 可能である				
公平性	⑦受益者負担の適正化余地 ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要はあるか？	3 見直しの余地がない 該当しない	3	図書館法の中で、図書館利用に対する対価を禁止しているため見直しの余地がない。	
		2 検討の余地あり			
		1 見直しが必要である			

■担当課による評価

改善 (Action)	今後の事務事業の方向性	コメント
	継続	遠隔の地域に対して図書館資料を活用できる場所として、今後も運営していくことが、望ましいが、利用状況の減少によっては、統廃合を見据えながら検証する必要がある。
改革・改善の余地	改革・改善案(ありの場合記入)	
なし		